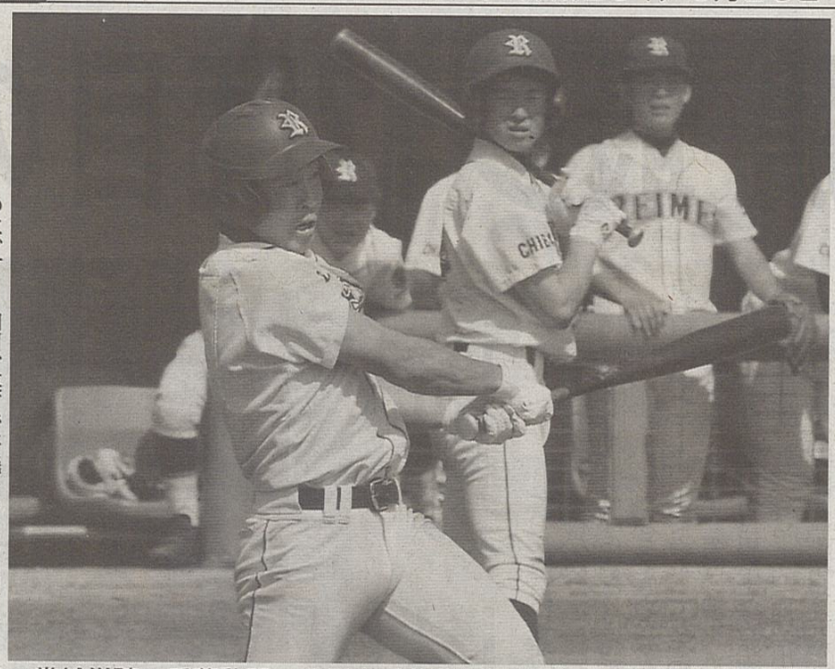
千葉黎明 17安打大勝



常総学院―千葉黎明　４回表千葉黎明無死一、二塁、根本が先制の２点適時三塁打を放つ＝桐生

春季 関東地区高校野球

春季関東地区高校野球大会第2日は22日、群馬県の桐生球場などで2回戦6試合が行われ、本県の千葉黎明は常総学院（茨城1位）に14―4でコールド勝ち、東海大市原望洋は石岡一（茨城2位）に3―2で逆転勝ちし、ともに初戦を突破した。

千葉黎明は四回に根本の2点適時三塁打などで5点を先制。その後も藤江の3ランなどで突き放し、今春センバツ出場の常総学院に17安打を浴びせ圧倒。春秋通じ関東大会で初の勝利を手にした。

2点をリードされた東海大市原望洋は八回、荒川の適時打などで追いつくと、九回に鯨井が決勝打を放ち逆転した。エース島が五回から登板し、10奪三振無失点で流れを呼び込んだ。

第3日は23日、準々決勝4試合が行われ、県勢はともに午前10時開始の第1試合に登場。千葉黎明は上毛新聞敷島球場で横浜（神奈川1位）と、東海大市原望洋は高崎城南球場で関東第一（東京1位）と対戦する。

▽２回戦（桐生）

千葉黎明
00053024 | 14
00020020 | 4
常総学院（茨城）

（八回規定によりコールド）
（千）川口、十和田―谷
（常）鈴木、伊藤、倉田、樫村―木村、清水
▽本塁打　藤江（千）
▽三塁打　根本、川口、柳沢（以上千）花輪（常）
▽二塁打　島村（千）

【評】千葉黎明が17安打で大勝。四回、根本の適時三塁打で先制すると、佐々木も続き一挙５点を集める。続く五回には藤江の３ラン、七回に島村の二塁打で加点。八回は柳沢、藤江の連続適時打などで突き放した。常総学院も10安打を放つが、つながらず。

白球

つなぐ打線で関東初勝利

つなぐ打線が猛威を振るった。計27安打が飛び交う乱打戦は「予想していなかった」と千葉黎明の荒井信久監督。今春センバツ出場の相手を打で圧倒し、さらに関東大会は秋も通じ同校史上初勝利。ナインは誇らしげに胸を張った。

四回、連打で好機をつくると、7番根本昌哉が打席へ。長打は少なく、手堅さが売りの打線。犠打を読み相手の内野手が投球と同時に突進してくる中、豪快に初球を振り抜いた。走者一掃の先制三塁打に沸き立つ三塁側。強攻策で突破口を開き、打者一巡の集中打で5点を奪った。

「次につなごうと全員が集中している」と根本。2点を返された直後の五回には主将の藤江康太が同じ初球を強振。「みんながつくったチャンス。壊すわけにはいかなかった」と右翼スタンドへ3ラン。流れをものにした。

エース川口廉と一塁の大堀智哉を除き先発全員が身長170㌢前後。県大会も本塁打1本と、課題に「打力」を迷わず挙げたチームだった。だが、この日は17安打。「群馬に来ても夜遅くまでみんなで素振りした結果」と藤江。弱点を克服し、敵が繰り出す好投手を次々とKOしていった。

武器の堅守やバントなど、健在の小技がリズムを生んだことに変わりはない。2年前の秋関東を経験している藤江は「あの時は逆に初戦コールド負け。やってきたことが成長につながった」と自信を口にする。歴史的一勝を挙げたチームの勢いは、確実に増している。

女房役が4安打

千葉黎明・谷

(捕)…千葉黎明の谷祐樹が4打数4安打と絶好調だ。八回には粘投で要所を押さえ続けた川口廉が三塁打。この回の始めに「2人で点を取り試合を早く終わらせよう」と約束した直後だった。続く打席で「力走した川口のために何とか打ちたかった」と得意の右打ちで1点を援護し、コールド勝ちに前進させた。

県大会はけがの影響で背番号8をつけた。「やっぱり2番は気が引き締まります。次も負けられない」。リードも打線もけん引していくことを誓った。